

第2章 地域の現状

第1節 地勢と交通

1 地勢

本県は、北は四国山地によって徳島・愛媛両県に接するとともに、南は太平洋に面した長い海岸線を有しており、東に室戸岬、西に足摺岬が太平洋に突き出しその内に土佐湾を抱く東西に細長い扇状をしています。

県面積は約7,105k㎡と全国では18番目に広い面積でありながら、森林面積の割合が約84%と全国1位であり、山間部が多く平野部が少ないという特徴があります。

2 交通

高速道路は県内の東西への延伸が進んでいますが、その整備はまだ途上であり、一般道路についても道路改良率は全国平均以下の45.1%にとどまるとともに、都道府県道の改良率は38.6%で全国最下位となっています。特に山間部には未改良区間が多く、医療機関への通院や救急搬送に時間がかかる要因の一つとなっています。

また、高齢化が進む本県では、自家用車の運転や歩行が困難な方が増加しており、通院や買い物などの日常生活において公共交通の重要性はますます高まっています。しかしながら、路線バスは、過疎化などによる利用者数の減少によって路線の維持が大変厳しい状況となっており、通院への影響も課題となっています。

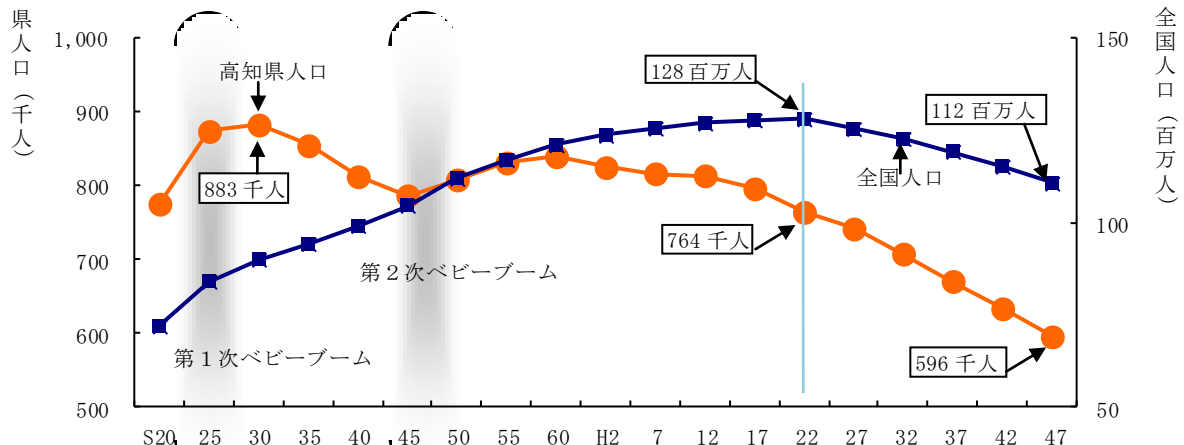
第2節 人口構造

1 総人口

本県の総人口は、昭和30年をピークに減少に転じ、昭和50年から一旦回復したものの昭和60年から再び減少しています。平成22年の国勢調査では約76万4千人となり、平成17年の前回調査から約3万2千人減少しました。人口流出による社会減が続いているほか、平成2年には全国で初めて都道府県単位で死亡数が出生数を上回る自然減となるなど、厳しい傾向にあります。この減少傾向は今後も続き、平成47年には60万人を下回ると推測されています。

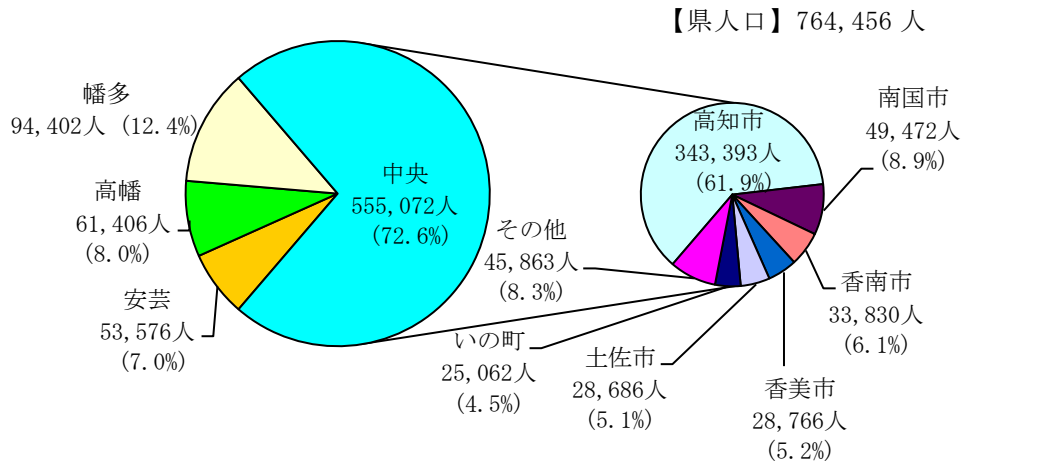
地域別にみると、中央圏域が約55万人、全体の72.6%を占めていますが、このうち高知市が約34万人と、県全体の44.9%を占めており、同市への一極集中が際立っています。

(図表 2-1) 総人口の推移



出典：(昭和 20 年～平成 22 年) 国勢調査(総務省統計局)、(平成 27 年～平成 47 年 全国人口) 日本の将来推計人口(平成 24 年 1 月推計、中位仮定)、(平成 27 年～平成 47 年 高知県人口) 日本の都道府県別将来推計人口(平成 19 年 5 月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

(図表 2-2) 圏域別人口

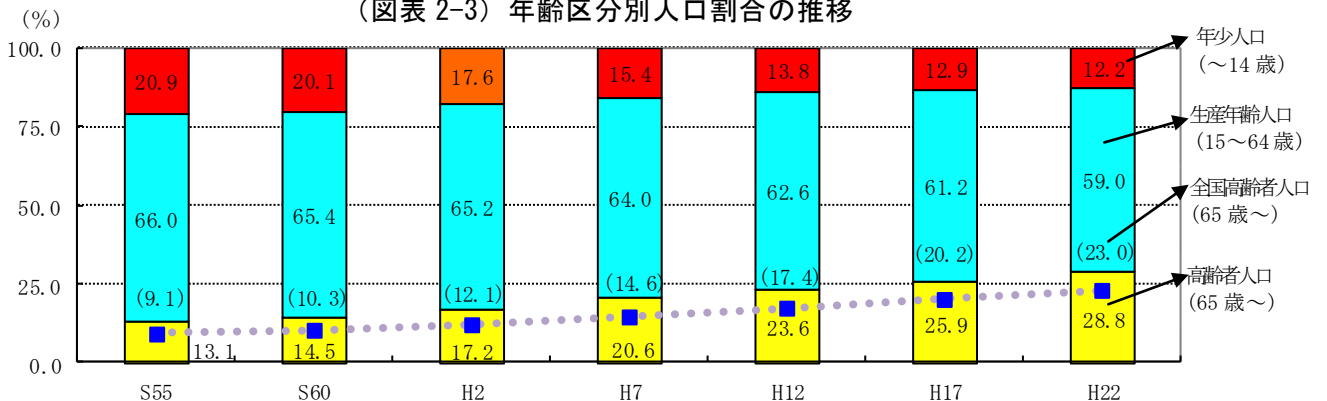


出典：平成 22 年国勢調査(総務省統計局)

2 年齢構成

平成 7 年を境に高齢者人口が年少人口を上回り、その後も少子高齢化が進行しています。また、平成 22 年における県全体の人口に占める高齢者人口の割合は 28.8%と、全国平均の 23.0%を大きく上回り、全国第 3 位となっています。

(図表 2-3) 年齢区分別人口割合の推移

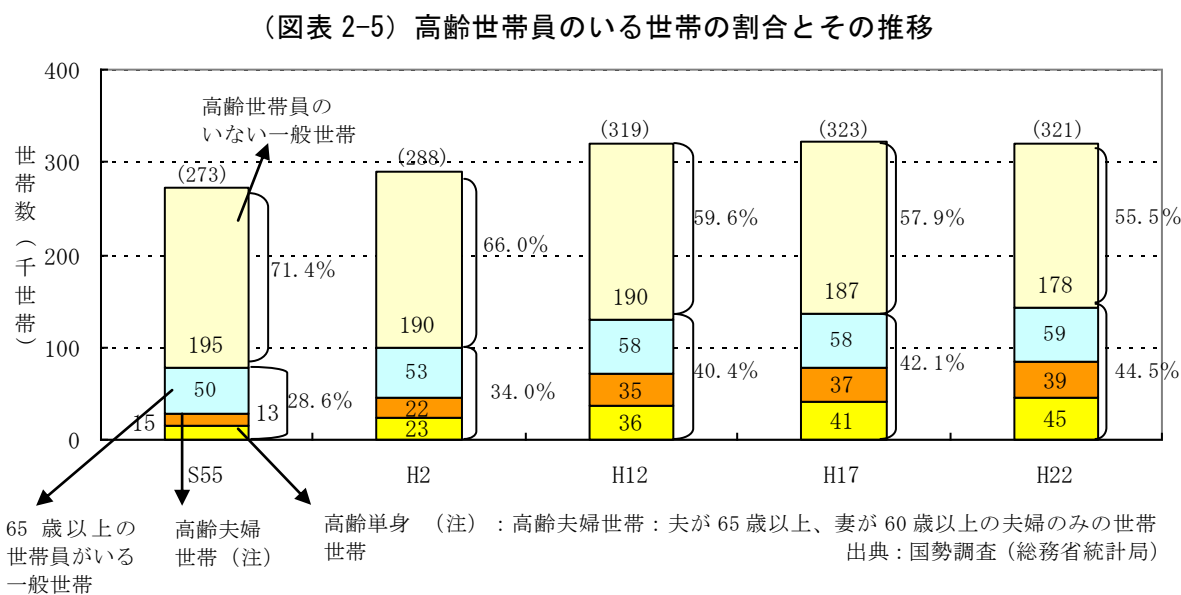
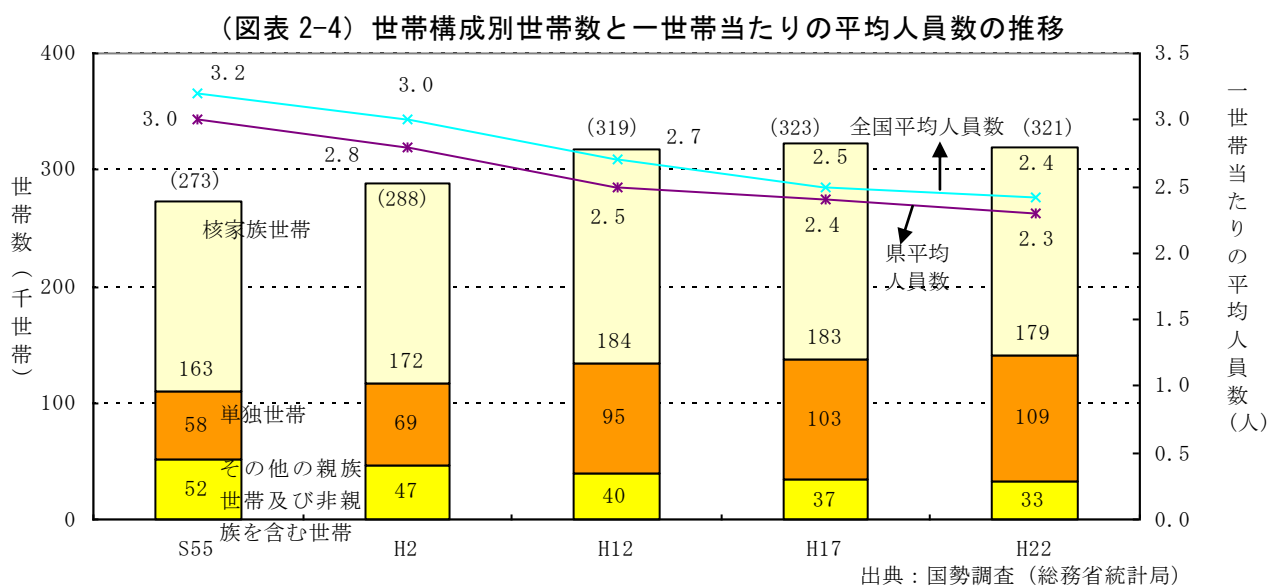


出典：国勢調査(総務省統計局)

3 世帯構成

平成 22 年の国勢調査では、「単独世帯」が 33.8%と引き続き増加する一方、「核家族世帯」の数は減少に転じ、総世帯数も減少しています。一世帯当たりの平均人員数を見ても、全国と同様の傾向で年々下がってきており、平成 22 年には 2.3 人で過去最少となっています。

また、65 歳以上の高齢世帯員のいる世帯は総世帯数の 44.5%で、高齢者のひとり暮らし世帯は総世帯数の 14.0%、高齢夫婦世帯（夫が 65 歳以上、妻が 60 歳以上の夫婦のみの世帯）は総世帯数の 12.1%を占めています。65 歳以上の高齢世帯員のいる世帯のうち、58.7%を高齢者ひとり暮らし世帯と高齢夫婦世帯が占めています。

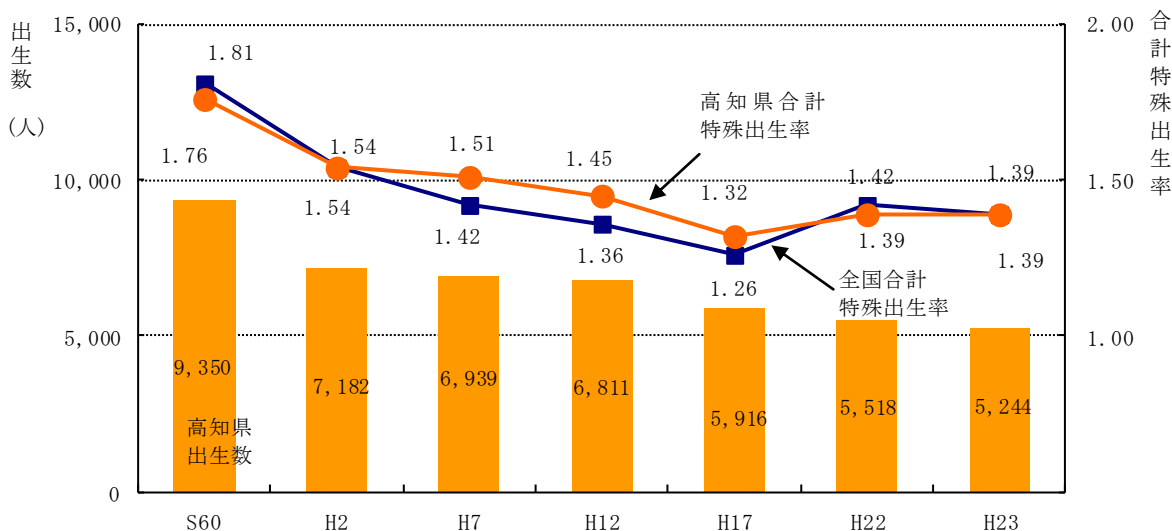


第3節 人口動態

1 出生

出生数は徐々に減少しており、平成23年では5,244人と過去最少となっています。また、女性が生涯に産む子どもの数の平均値である「合計特殊出生率」は、平均初婚年齢の上昇などにより低下傾向となっています。

(図表 2-6) 出生数及び合計特殊出生率の推移



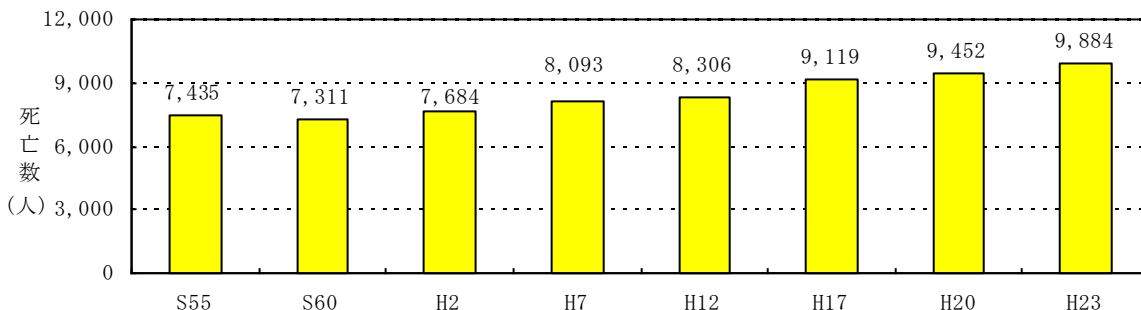
出典：人口動態調査、(平成23年)人口動態統計月報年計(厚生労働省)

2 死亡

(1) 死亡数と年齢調整死亡率

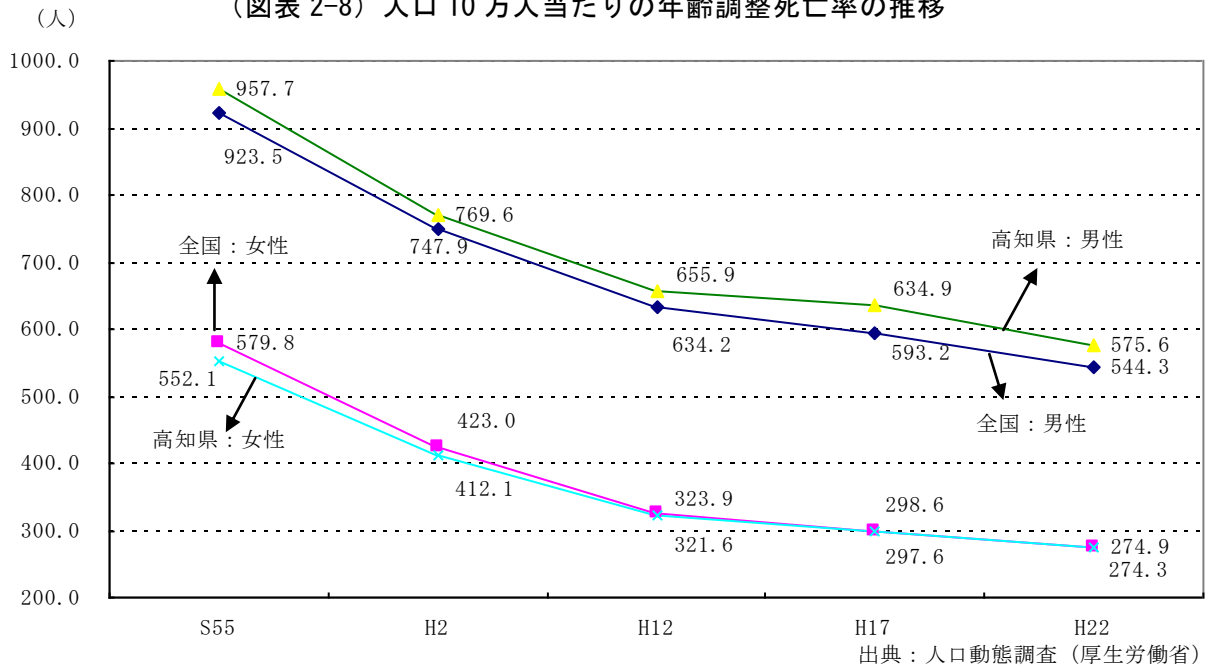
死亡数は、高齢者人口の増加を一因として年々増え、平成23年では9,884人となっています。また、年齢構成を調整した死亡率(年齢調整死亡率)で見ると、女性は全国平均並みとなっている一方、男性は全国平均を上回っています。

(図表 2-7) 死亡数の推移



出典：人口動態調査、(平成23年)人口動態統計月報年計(厚生労働省)

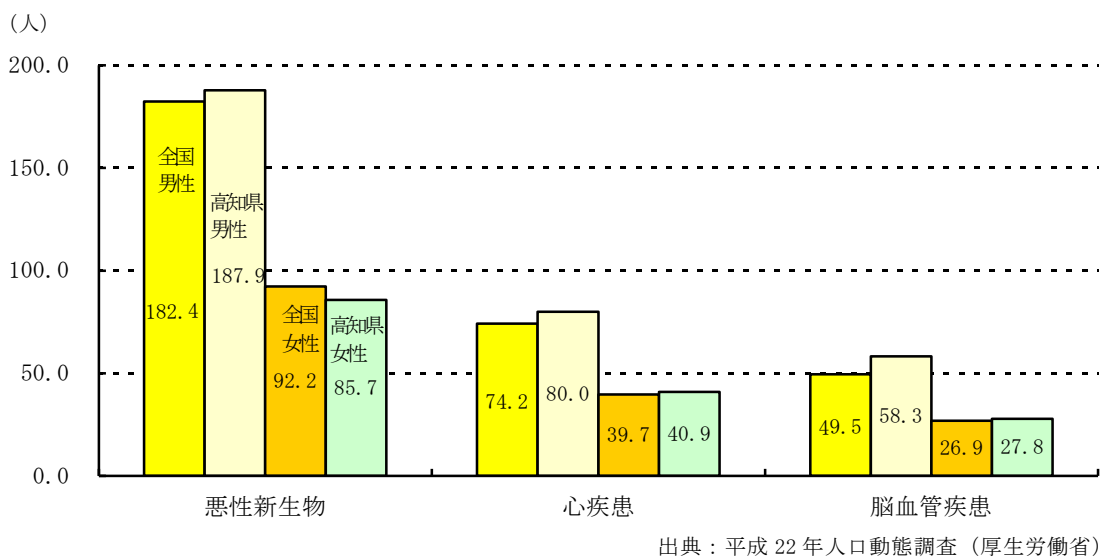
(図表 2-8) 人口 10 万人当たりの年齢調整死亡率の推移



(2) 死亡原因

昭和 55 年には、全国の死亡原因の第 1 位は脳血管疾患、第 2 位は悪性新生物、第 3 位は心疾患、第 4 位は肺炎でしたが、平成 23 年には、第 1 位は悪性新生物、第 2 位は心疾患、第 3 位は肺炎、第 4 位は脳血管疾患となっています。また、本県の平成 23 年度の死亡原因の順位については、ほぼ全国と同じ傾向となっています。

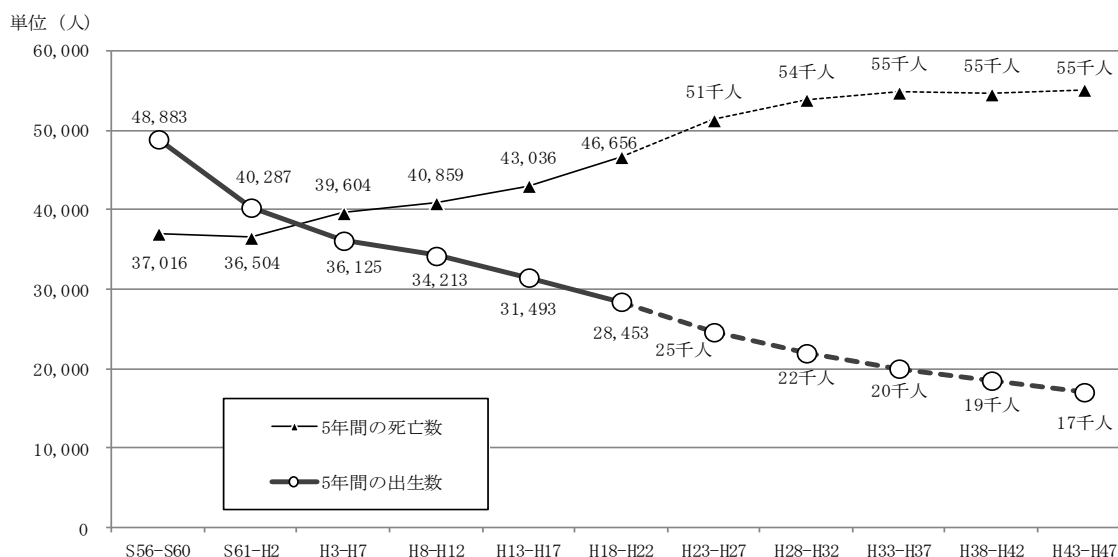
(図表 2-9) 人口 10 万人当たりの主な死因別の年齢調整死亡率



3 出生数と死亡数の将来推計

今後の出生数、死亡数の動向をみると、出生数は平成 47 年まで減少傾向が続く一方、死亡数については、平成 33 年以降は 5 年間で 5 万 5 千人程度の水準でおおむね推移するものと考えられています。この結果、死亡数の増加は鈍化するものの、自然減の傾向は止まらない見通しです。

(図表 2-10) 高知県の出生数と死亡数の将来推計



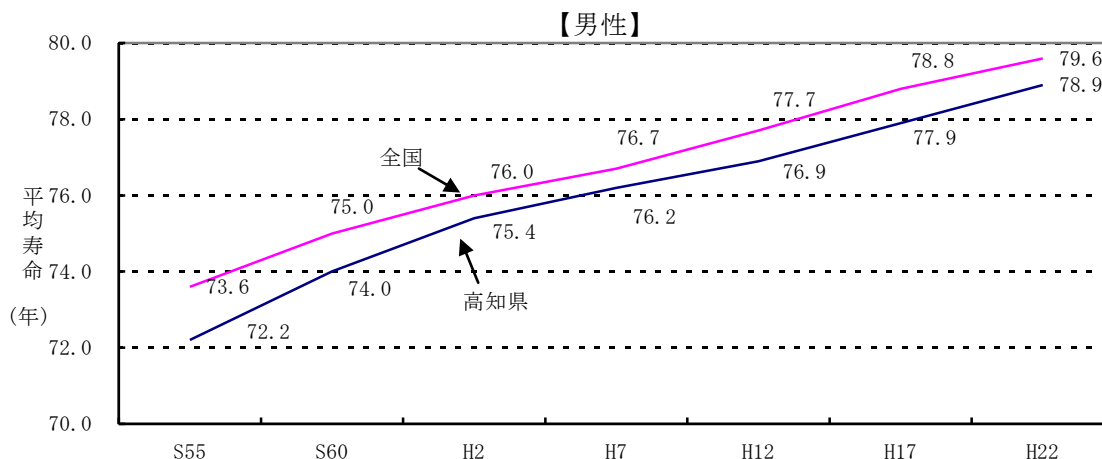
(注) H18-H22までは「人口動態統計」(厚生労働省)、H23-H27以降は「平成17年国勢調査」(総務省)の年齢別人口に「日本の都道府県将来推計人口(平成19年5月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)の高知県の仮定値表で示されている男女・年齢(5歳階級)別出生率、男女・年齢(5歳階級)別純移動率及び女性の年齢(5歳階級)別出生率を用いて計算

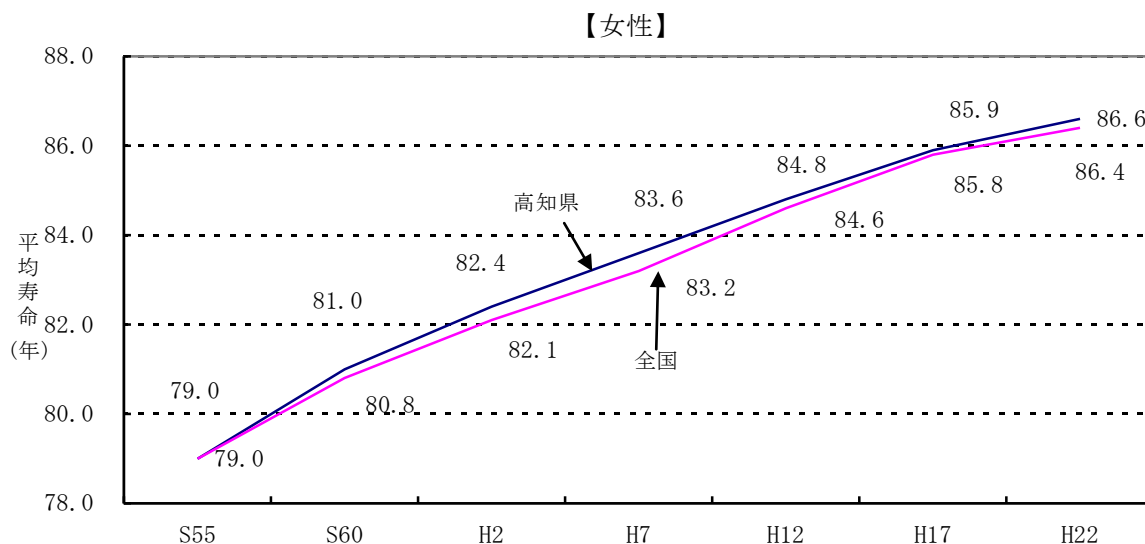
出典：高知県推計

4 平均寿命

生まれてから死ぬまでの時間の平均を表す平均寿命は、男女ともに年々延びており、平成 22 年では、男性 78.9 年、女性 86.6 年となっています。

(図表 2-11) 男女別平均寿命の推移





出典：(平成 17 年まで)都道府県別生命表(厚生労働省)
(平成 22 年)健康日本 21 評価作業チーム資料(厚生労働省)

第 4 節 医療提供施設の状況

1 病院

平成 23 年 10 月 1 日現在の病院数は 137 施設で、人口 10 万人当たりでは 18.1 施設と、全国平均の 6.7 施設を大きく上回り、全国第 1 位となっています。圏域別では、特に幡多と中央の 2 つの圏域で多く、なかでも高知市とその周辺に集中するなど、都市部と中山間地域では大きな差が生じています。

病院の病床数(18,879 床)も人口 10 万人当たりで 2,490.6 床と、全国平均の 1,238.7 床の約 2 倍となっています。特に、療養病床は全病床に占める割合が 36.9%(6,961 床)と、全国平均の 20.9%に比べて高く、高齢化が進む本県の医療提供の特徴の一つとなっています。

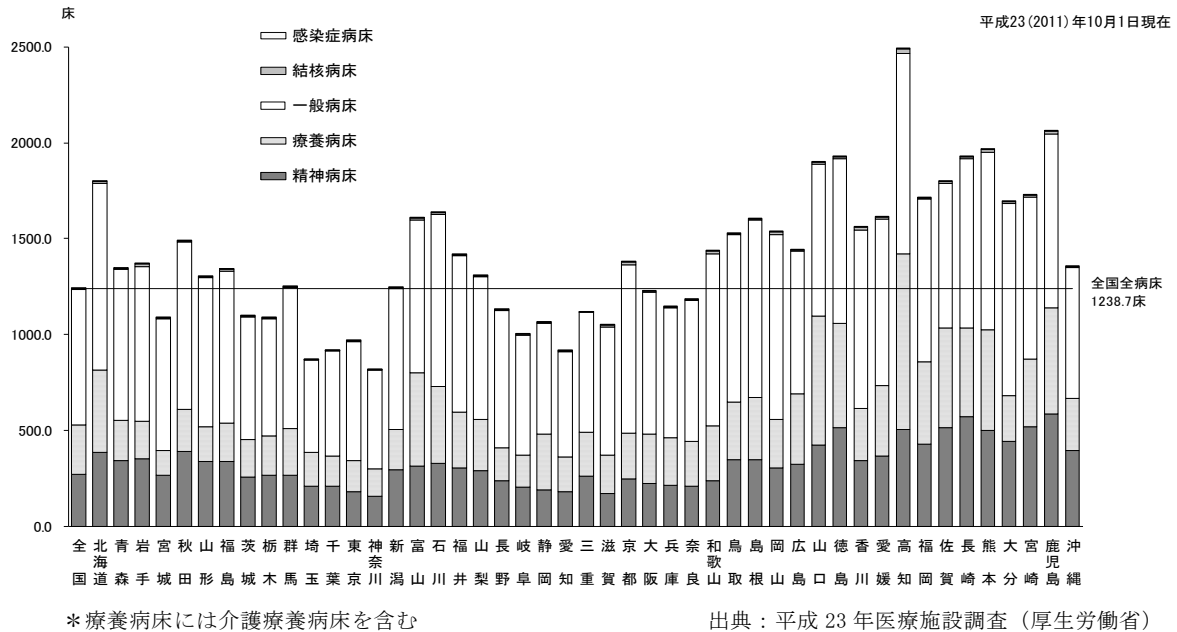
(図表 2-12) 圏域別の人口 10 万人当たりの病院数

高知県	安芸	中央	高幡	幡多	全国
18.1	13.1	18.0	13.0	21.1	6.7

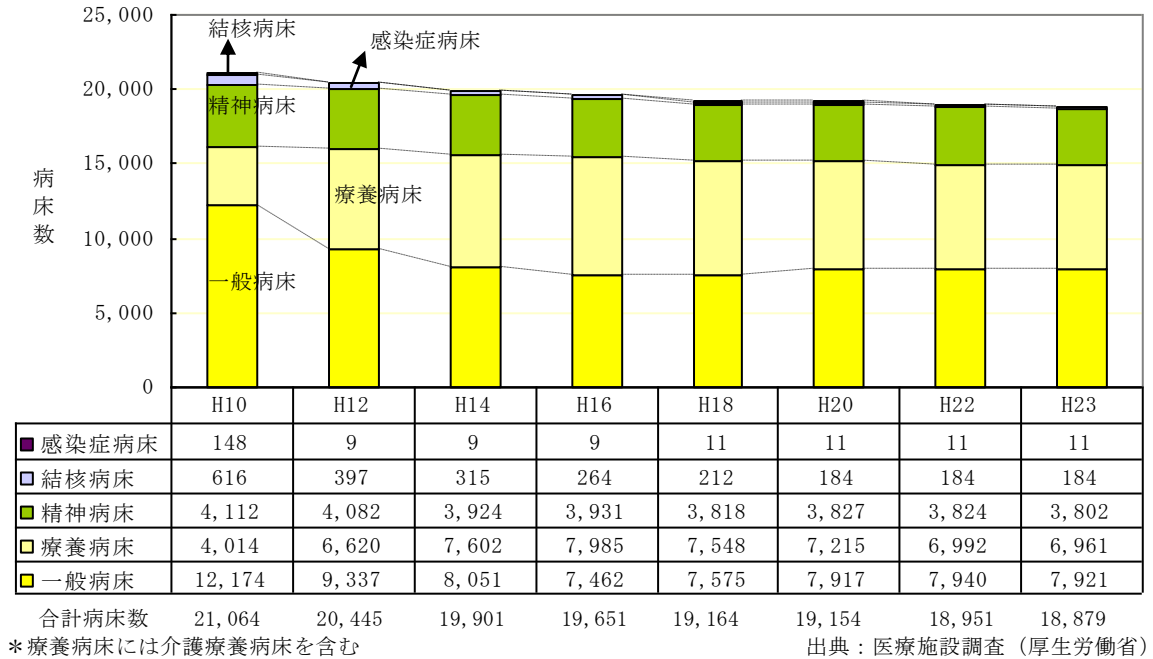
出典：平成 23 年医療施設調査(厚生労働省)

*圏域別の数値については、平成 24 年 11 月 30 日現在の病院数と平成 22 年国勢調査(総務省統計局)を用いて高知県が計算

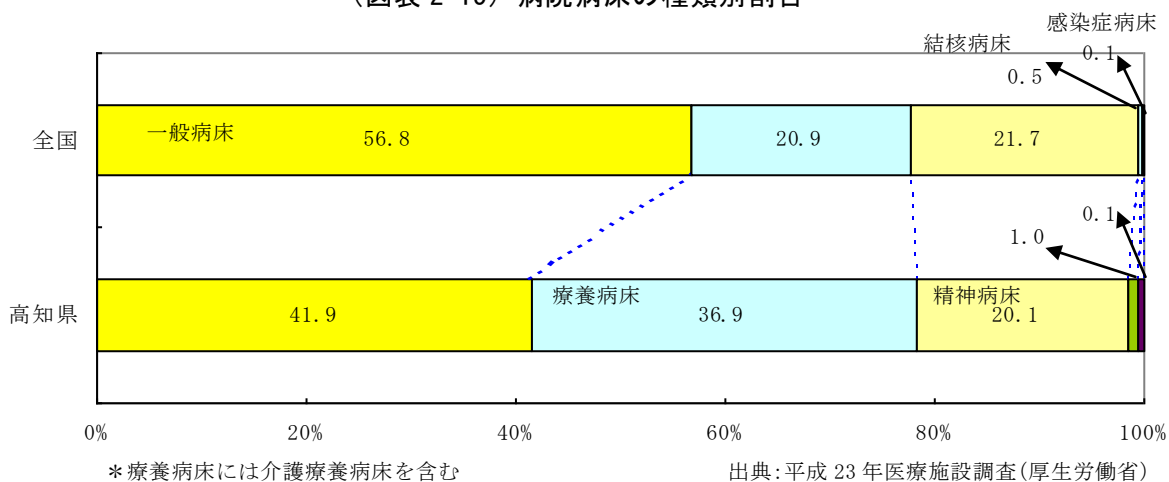
(図表 2-13) 都道府県別にみた人口 10 万人当たりの病院病床数



(図表 2-14) 高知県の病院病床数の推移



(図表 2-15) 病院病床の種類別割合



2 一般診療所

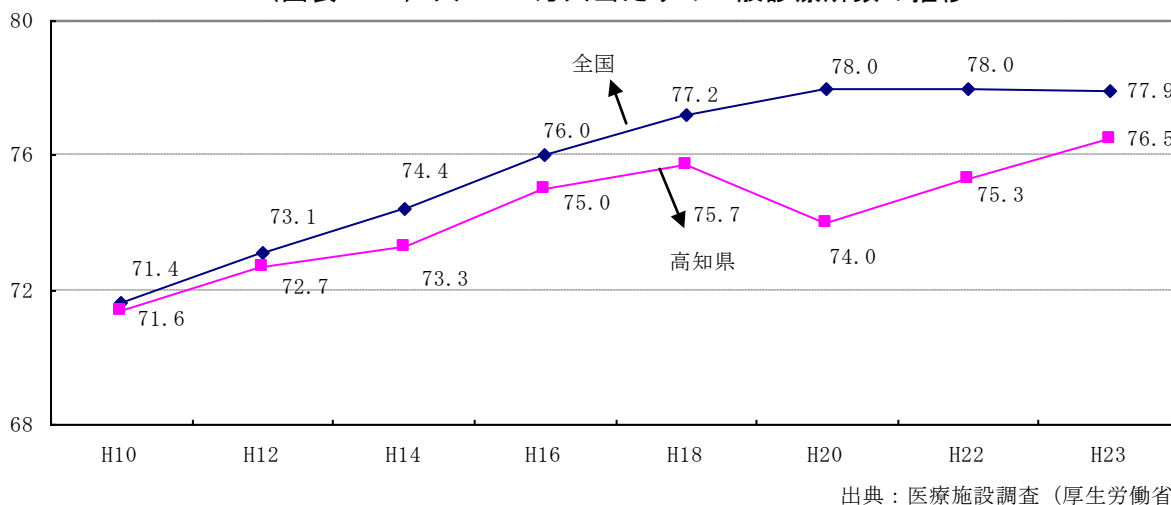
平成 23 年 10 月 1 日現在の一般診療所数は 576 施設あり、人口 10 万人当たり 76.5 施設で、全国平均の 77.9 施設を若干下回っていますが、病床数で見ると全体で 1,560 床、人口 10 万人当たりでは 205.8 床となり、全国平均の 101.2 床を上回っています。

(図表 2-16) 圏域別の人口 10 万人当たりの一般診療所数

高知県	安芸	中央	高幡	幡多	全国
76.5	78.4	78.5	76.5	74.2	77.9

*圏域別の数値については、平成 24 年 11 月 30 日現在の一般診療所数と平成 22 年国勢調査(総務省統計局)を用いて高知県が計算
出典：平成 23 年医療施設調査(厚生労働省)

(図表 2-17) 人口 10 万人当たりの一般診療所数の推移



(図表 2-18) 圏域別の人口 10 万人当たりの一般診療所の病床数

高知県	安芸	中央	高幡	幡多	全国
205.8	175.5	235.5	123.8	217.6	101.2

*圏域別の数値については、平成 24 年 11 月 30 日現在の病床数と平成 22 年国勢調査（総務省統計局）を用いて高知県が計算
出典：平成 23 年医療施設調査（厚生労働省）

3 歯科診療所

平成 23 年 10 月 1 日現在、歯科診療所数は 365 施設あり、人口 10 万人当たりでは 48.2 施設で、全国平均の 53.3 施設を下回っています。

圏域別では、幡多を除く圏域で全国平均を下回っています。

(図表 2-19) 圏域別の人口 10 万人当たりの歯科診療所数

高知県	安芸	中央	高幡	幡多	全国
48.2	46.7	48.8	39.1	54.0	53.3

*圏域別の数値については、平成 24 年 11 月 30 日現在の歯科診療所数と平成 22 年国勢調査（総務省統計局）を用いて高知県が計算
出典：平成 23 年医療施設調査（厚生労働省）

4 薬局

平成 23 年度末現在、薬局数は 399 施設あり、人口 10 万人当たりでは 52.6 施設で、これは全国平均の 42.9 施設を大きく上回っています。

(図表 2-20) 圏域別の人口 10 万人当たりの薬局数

高知県	安芸	中央	高幡	幡多	全国
52.6	61.6	51.0	48.9	44.5	42.9

*圏域別の数値については、平成 24 年 11 月 30 日現在の薬局数と平成 22 年国勢調査（総務省統計局）を用いて高知県が計算
出典：平成 23 年度衛生行政報告例（厚生労働省）